

ちゃぶ台次世代コーホート（第 7 回研修会）開催要項
同 Advanced Course（第 10 回研修会）開催要項

- 1 趣 旨 教職志望学生と若手教員等が、教員としての資質能力の向上、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。
特に、特別支援教育、インクルーシブ教育システムのあり方に関する講義や受講生相互の交流、協議等をとおして、教職キャリアの形成や充実深化を図る。
- 2 主 催 山口大学教育学部・大学院教育学研究科（教職大学院）
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター
- 3 共 催 山口県教育委員会、山口市教育委員会
- 4 開催日時 令和 6 年 3 月 1 6 日（土） 1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
- 5 開催場所 山口大学教育学部「21 番教室」（教育学部講義棟 2 階）
〒753-0831 山口市大字吉田 1677-1
- 6 参加者 教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等
- 7 研修内容
 - (1)開会行事
あいさつ 山口大学教育学部 学部長 鷹 岡 亮
 - (2)講 演
テーマ 「通常の学級における特別支援教育 ～インクルーシブ教育システムの実施に向けて～」
講 師 新潟大学大学院教育実践学研究科 教授 長 澤 正 樹 さん
 - (3)研究協議
①内容 「1 年間の研修の振り返り ～私を刺激した、変えた、目を覚まさせたもの～」
②内容 「次年度に向けて ～私のチャレンジ、学校のチャレンジ～」
支援者 山口大学センター・教育学部・教育学研究科教職員等
 - (4)まとめ・閉会行事
講 評 山口県教育庁教職員課 主査 松 嶋 渉
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二
8. 「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）
 - (1)本研修では、主催者として「感染防止の 5 つの基本（厚生労働省 ADB,2023.3.8）」を参考として感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を要請する。
 - (2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修形態を「対面・参集型研修」から「オンライン研修」等に変更する場合がある。
9. その他
 - (1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費および山口大学教育学部「ちゃぶ台プログラム」事業支援経費等により運営される。



コーホート

17年目のHop! Step! Jump!

ちゃぶ台次世代コーホート通信第3号
 山口大学教育学部（ちゃぶ台方式教職研修部）
 ちゃぶ台次世代コーホート事務局
 山口県山口市吉田1677-1

授業づくりや幅広い教育課題のワークショップ、課題研究発表等の講座の中で学び合いました！

本年度第6回のコーホート研修会（Advanced course第9回研修会）を、2月10日に山口大学教育学部にて開催しました。今回は受講生や受講生の同僚のみなさん、やまぐち総合教育支援センターの長期研修教員のみなさんが、授業づくりや幅広い教育課題についての講座を開いてくれました。参加者は、午前は受講生【発表者も含む】51人（現職教員35人、学生16人）、大学スタッフ・関係者19人、計70人でした。参加者の振り返りを通して、研修会の様子をお伝えします。

第1部：13:10～14:15

テーマ：子どもと共に育つ先生 ～私らしい先生であるために～

講師 教職員支援機構次世代型教職員研修開発センター
 研修プロデューサー 飯干 新 さん



飯干先生のお話を聞いて、改めて、研修を受ける際の心のあり方について学ぶことができました。研修といえば、「講師の先生に新しい知識を教えていただくもの」「自分が興味のあるものに参加する」といったイメージがありました。しかし、研修で他者と交流する際は、自分の「価値観の輪郭」を意識・発見することが必要であることを学びました。そして、まずは相手の意見をしっかりと受け止めた上で、自分との価値観との差を考えていくと良いと学ぶことができました。今後、研修会に参加する際は、自分ならどうするかということを常に考えながらのぞみます。（大学院M1）

研修も「自分たちで考えたり探究したりする時間に」とおっしゃっていて、意識を変えていかなければいけないと改めて感じました。研修について、もっと学んでいきたいです。また、「対話すれば学びがある学びが深まる」というわけではなく、対話を通して学ぶために、その対話の視点を明確にすることの大切さを感じました。「自分の枠を見つけようとする」ということは、大人にとって大切な考え方だと思いました。どうして先生になりたいと思ったのか、どんな先生になりたいのか、学校でも是非先生方と話してみたいです。（小学校教諭）



テーマ：学生時代を振り返って 教職について 想うこと

講師 山口県光市立浅江小学校 教諭 宮内 秀一郎さん



人間(子どもたち)の将来は、どこでどうなるのか本当に分からないのだと改めて感じました。そして、その人間(子どもたち)の成長に最も重要であるといっても過言ではない6年間に携わることのできる、6年間も携わることのできる小学校教員は、改めて魅力的な仕事であると感じました。（大学3年）

学生ではあるが、どのような人生を歩んでいきたいかをしっかり考えることができた。魅力ある人は魅力ある教員という言葉もあったので魅力ある教員になるためにながら必要かを考えて過ごしていきたい。（大学3年）

宮内先生が今まで出会われた方や過去の生徒とのエピソードをいくつか紹介していただき、人との出会いの大切さを改めて実感することができた。講座のテーマでもあったが、今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えることができた。（大学院M1）

宮内先生のお話は、自分自身の学生時代を振り返ったり、これからの人生について考えたりするきっかけになりました。

憧れの職業である教職に就いた今、少し初心を忘れていたなと思いました。自分がどうして教職に就いたのか、どういう子どもを育てたいのか原点回帰することができました。（小学校教諭）



テーマ：個別最適な学びによる表現する意欲を高める授業づくりに関する研究
 ー中学校数学科におけるデジタル版「やまぐちっ子学習プリント」の活用を通してー
 講師 やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
 山口県周南市立住吉中学校 教諭 安達 佑一さん



「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法のイメージを、私はあまりもっていませんでしたが、「課題の選択」や「学び方の選択」で学習の進め方を生徒自身が試行錯誤して学ぼうとしているかを図るという方法はとても良い方法であると感じました。「学び方の選択」ができると、先生は一人ひとりの学習状況をよく観なければならないと感じ、「一人で学んでいる子なのか」「グループ学習が得意な子たちなのか」等ということはどう見取るのか、「どのような点を重視して授業を展開しているのか」等、授業時の先生の考えが気になりました。(大学3年生)

「やまぐちっ子学習プリント」をただ問題を解く練習として使うのではなく、表現力の向上等も考えた使い方ができると知り、「そんな使い方もあるのか」と驚きました。デジタルとしての強みを活かした方法を考えることが大切なのだと感じました。(大学3年生)



テーマ：見通しを立てる力の育成をめざした学習指導の充実に関する研究
 ーICT機器等を活用した解決までの流れを可視化する活動を通してー
 講師 やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
 山口県立宇部中央高等学校 教諭 板倉 直子さん



高等学校の実際を聞くことができ、小学校教諭として自分の取組を振り返ることができた。小学校段階では見通しを自分で立てることができるよう、まずは引き出しを増やすべく様々なことを経験させていくことが大切だと感じた。日々の授業においても、既習事項を意識させていくことに力を入れたい。またプログラミング教育とのつながりを感じ、段階的に問題解決に向けてど取り組みれば良いのか考える機会の積み重ねが重要だと感じた。

今回紹介をされたステップチャートは1種類だったが、枝分かれするもの等、自分で選択できるようにすることも実践してみたいと考えた。途中で変更を加えやすいというICTの特性を活かして、自分の実践にも活かしていきたい。(小学校教諭)

高校生が「見通し」をもつために、学習課題と方策の流れを可視化・共有する必要があることについて学ぶことができた。特に、ステップチャートという流れが一目で分かる図を活用していることが、印象的だった。教師が如何に仕組む授業をデザインするか、考えさせられる内容が多い講座だった。(大学3年生)



様々な校種、立場、経験をもつ仲間と語り合うと
 新たな見方・考え方を得たり、
 初心を思い出すことができたり、
 ……素敵なことがたくさん生まれますね。

初参加の大学生の方とお話する機会をいただき、教員をめざした理由等をグループで語る中で自分自身の教員「観」を考えることができました。このちゃぶ台研修会全般を通して、立場の違う方々と語り合う中で、自分自身を見つめる機会を数多くいただきました。

特に、若い世代の方々の柔軟で優しい見方・考え方から学べることが多く、時代に合わせて常に学びを更新していかなければと改めて思いました。(小学校教諭)

第2部：14:30～15:35

テーマ：角倉小の校内研修と総合的な学習の時間・自立活動の授業実践紹介！

ー『つながり』を大切にし、『つながり』から学びを深めるー

講師 山口県下関市立角倉小学校 教諭 江村 葉 さん
教諭 縄田 瑞葵 さん
教諭 小川 拓馬 さん
教諭 菅 紗緒里さん



先生方が”つながり”をととても大切にされていることが伝わってきました。生徒間でも先生間でも、人々との”つながり”は様々なよい効果をもたらすことが改めて分かりました。私も、授業や教育についてを考える際、また、日常を過ごす中でも”つながり”を大切にしようと思います。実際の現場の「総合的な学習の時間」の具体的な取組を聞くことができ本当に良かったです。
(大学3年生)

総合的な学習の時間の実践についてだけでなく、校内研修のあり方について学ぶことができた実践発表だった。学年をばらしてグルーピングするといった今までのやり方とは違った校内研修の組み立て方が非常に勉強になった。情報共有のためのプレゼンを行い、全校でお互いの考えや取組を共有し、深めることは有効だが、発表で言われていた通り時間の確保が課題として挙がる。タイムマネジメントが大切だと改めて思った。

総合的な学習の時間の実践については、地域と連携しながら多くの人に子どもたちを支え、認めてもらうよい実践ばかりだった。地域の未来というテーマになるとなかなかすぐにアイデアを実現することが難しいが、やはり自分の思いが形になると子どもたちの意欲が大きく高まるのだということがよく分かった。これらの実践を来年度どうつないでいくのか縦のつながりの部分が非常に興味深い。この学年で身に付けた力をどう次の学年で活かすのか、継続してお話を聞きたいと思った実践だった。
(小学校教諭)

テーマ：特別支援教育の充実って、どうやるの？

ー特別支援教育コーディネーターが考える戦略と課題ー

講師 大阪府堺市立福泉中学校 教諭 川口 慎司 さん

「中学校社会科教員を志願し採用試験に合格したにもかかわらず、特別支援教育に力を入れるようになったきっかけは何なのだろうか」とお話を聞きながら考えていた。尊敬の念があるからその疑問である。自身と同じ境遇ということもあり、なおさら、上記のように考えていた。

私は小学校教諭の免許状を取得していないが、小学校教員として勤務している。学級担任をもつこともできない。小学校教員のようにきめ細かい、丁寧な授業を展開できていないという自覚と後ろめたさを常にもっていた。私なりに努力をしているが、力不足を感じる日々が続いている。川口先生も同じような境遇にあったようだ。しかし、川口先生は特別支援学校教諭免許状を取得された。尊敬に値する。

山口県が求める教師像のなかに「強い使命感と倫理観を持ち続けることができる人」「児童生徒を共感的に理解し、深い教育的愛情をもっている人」「常に自己研鑽に努める意欲とチャレンジ精神のある人」とある。他の教師像もあるが、川口先生の姿からは、また川口先生の姿を通して、この3つの教師像を見ることができた。特に「強い使命感」「自己研鑽」「チャレンジ精神」を見ることができた。なぜなら、大阪から山口まで行き来し、しかも講師を引き受けられたからである。

川口先生のような先生は、日本各地のありとあらゆる県市町で必要とされるのだろう。なぜなら、情熱をもっているからである。情熱は人を引きつけ、自分のもてる力以上の力を発揮し、思いもよらぬ成果をあげることができる。川口先生の講義の内容からも多くの学びを得たが、その姿勢、想いからも多くの学びと自己を振り返る機会を得た。
(小学校教諭)

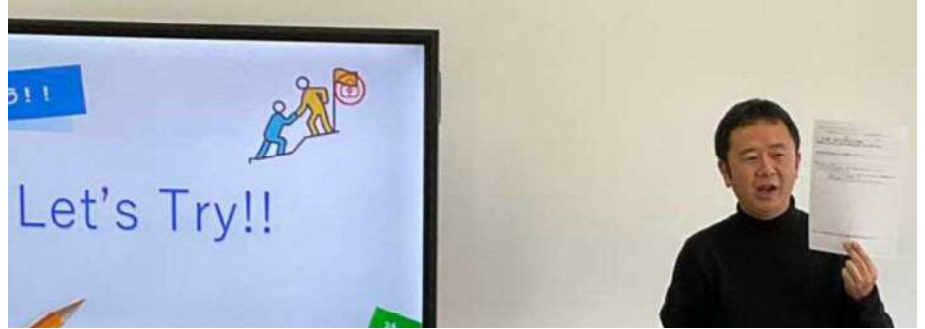


テーマ：わくわくカリマネプランを創ろう

講師 山口県山口市立平川小学校 教諭 白石 真也 さん

カリキュラム・マネジメントという言葉についての理解は、恥ずかしながら薄かった。白石先生の講義をきいて、初めて理解できた。どんな地域、学校に配属されてもその強みが絶対であり、その強みをうまく活かしてカリマネしていくことが大切であると学んだ。「そこでしかできないやん」って言われるような学びを作りたい。

(大学院M1)



白石先生のご講義をうけて、カリキュラム・マネジメントについて考えることができました。カリキュラム・マネジメントというものは何か、調べてみるものの「結局何をすればいいの？」というのが私の印象でした。

白石先生のご講義を受けてその地域ならではのものを生かした「この学校でしかできないものって何？」を意識した教育であると学びました。私の母校である白石小学校ならどんな教育ができるか考えてみると、白石地区はNHKやYABといったテレビ局や、消防署、商店街、そして、祇園祭や提灯祭り、外郎屋などの伝統文化など、さまざまな魅力があることを学びました。このように、教師自身がその地域の魅力を発見し、活躍していくことが大切であると思いました。(大学院M1)

テーマ：どうやって若手教員を育てるか一日々の校務を通して一

講師 山口県岩国市立灘中学校 教諭 井村 真規 さん



現職の先生方が若手教員についてどう思い、どうご指導されているのかを、お聞きすることができました。“困ったらすぐに、まずは、お尋ねをする”ということを常に念頭においておきたいです。(大学3年生)

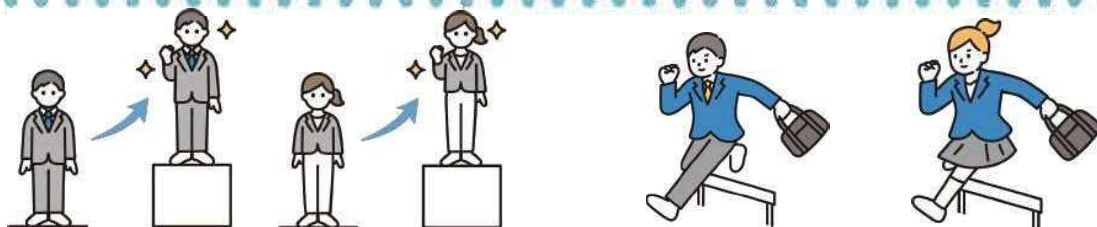


井村先生の講座では、育てていただく側の立場で受講しました。子どもだけでなく、教職員を育てることも教員の仕事なんだと思いました。また、若手もただ育てていただくという受け身の姿勢ではなく、「学びたい」「成長したい」というような人間性が必要だと気がきました。

自分自身を客観視できる講座になりました。

(小学校教諭)

4年目となり、校内にも後輩が増えてきています。これからは、後輩の成長を支えられるようになっていかなければならないと感じました。そのためにも、「人材育成」という視点をもって、校務にあたりたいです。また、安心感をもってもらえるよう、自分自身の資質・能力も高め続けていきたいです。(小学校教諭)



第3部：15:50～16:55

テーマ：学校を元気にする ー学びと遊び心を大切にー
学校と地域の連携による子育て支援の取組と

生徒による「教師の日」プロジェクトの取組
講師 山口県防府市立桑山中学校 校長 美作 健悟 さん



美作先生の学校で働いてみたいと思いました。中学校に赤ちゃんが来るという取組は、他の学校で行っていますが、子育て支援とつながっていく取組は初めて聞きました。地域も学校も元気になる、素晴らしい取組だと感じました。思わず笑顔になる学校の姿を具体的にを見せていただき、こちらも笑顔になる研修でした。「教師の日」プロジェクトのお話も、思わず笑顔になりました。中学生があんふう先生のためにサプライズができるのは、アンケートに出ているように、本当に学校が楽しいのだと感じました。生徒と教師の双方が自然と感謝し合える学校は元気な学校になるだろうと思います。（中学校教諭）

「学校を元気にする方法は何だと思えますか」と美作校長先生に問われたとき、「共通理解・協働協議された目標の設定」「談笑の場の設定」だと私は考えた。美作校長先生は「仕掛けと環境をつくる」と教えてくださった。この仕掛けと環境の行き着く先は「学校現場では学校教育目標である」と言われ、納得させられた。

美作校長先生が紹介された仕掛けのなかには、持続可能な「乳幼児ふれあい体験」、「教師の日」があった。特に印象に残った内容は「教師の日」に向けての、美作校長先生と生徒たちのエピソードである。生徒会役員を校長室に集め、「教師の日」の意味を説明された。生徒との対話からプロジェクトチームを立ち上げ、計画を立てた。「教師の日」までに全クラスが昼休みに学級担任や関係教員にメッセージビデオを撮影、編集し、当日、流すというものであった。生徒たちは先生たちに秘密にするというワクワク感やドキドキ感、また、感謝の心ももったことだろう。当日のビデオを視聴した先生方は、それまでの様々な苦労や困難も吹き飛んだようである。

「組織の成果はリーダーの器の大きさに比例する」「組織はリーダーの器以上に大きくならない」「チームは監督の器以上にはならない」という言葉がある。美作校長先生の姿から「組織の元気さはリーダーの元気さに比例する」「組織の元気さはリーダーの元気さ以上にはならない」と思った。美作校長先生がお元気だから、生徒、先生方が元気なのだろう。冒頭に「共通理解・協働協議された目標の設定」「談笑の場の設定」が学校を元気にする方法だと述べたが、学校を元気にする一番の方法は「リーダーが、先生方が明るく前向きで元気なこと」だと思う。教師が元気にいるためには、よく学び、よく食べ、よく動き、しっかり休むことだろう。そう考えると、日々の生活を大切に生きていくことを心がけ、力強く人生を歩んでいきたい。（小学校教諭）

テーマ：小中の円滑な接続を図る有効な手立てを探る

講師 山口県美祢市立淳美小学校 教諭 谷 貞佑 さん



この講座で、様々な立場の方と対話していく中で、印象的だったのは、「小中のギャップを無くすのではなく、ある程度のギャップは必要なのではないか。ギャップに耐え得る力を子どもたちにつけないといけないのではないか。」ということです。

小学校、中学校、高校と社会に出るまでのことを考えると、ギャップは必然的に起こるものだと思います。ただ、小学校から中学校は心も体も成長してからの初めての大きなギャップであるから、それまでにギャップに対応する力をつけなければならないと考えました。

そのために、「中学校の生活の様子を伝え、イメージさせること」「小学校の間にも壁を乗り越える経験を積ませること」などが大切かなと考えました。

現在6年生担任なので、卒業までの残りの期間で、できることからやってみます。（小学校教諭）

新たな環境に入った時は、「これまで」とのギャップを誰もが感じるのだと思います。そういったドキドキな環境であっても、「これまでの経験で得たことをもとにして、様々なことに向き合っていけば大丈夫だ！」というような前向きな思いをもつ子どもを育成していきたいですね。そのための学びの在り方について、これからも考えていきたいです。（大学教員）



テーマ：自らの学習を調整する力を育てる算数科の授業づくりに関する研究
 - デジタル版「やまぐちっ子学習プリント」の

活用による「個別最適な学び」を通して—
 講師 やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
 山口県宇部市立琴芝小学校 教諭 山口 佳恵 さん



小学校でも事前学習を行うことが、授業で子どもたちがそれぞれ自分に合った勉強を進めていくための鍵になる可能性に気付くことができた。事前学習を考えても、子どもたちが嫌々している場合や、全然行っていない状況ではいけないと思うので、量やタイミングには気を付けられないと感じた。

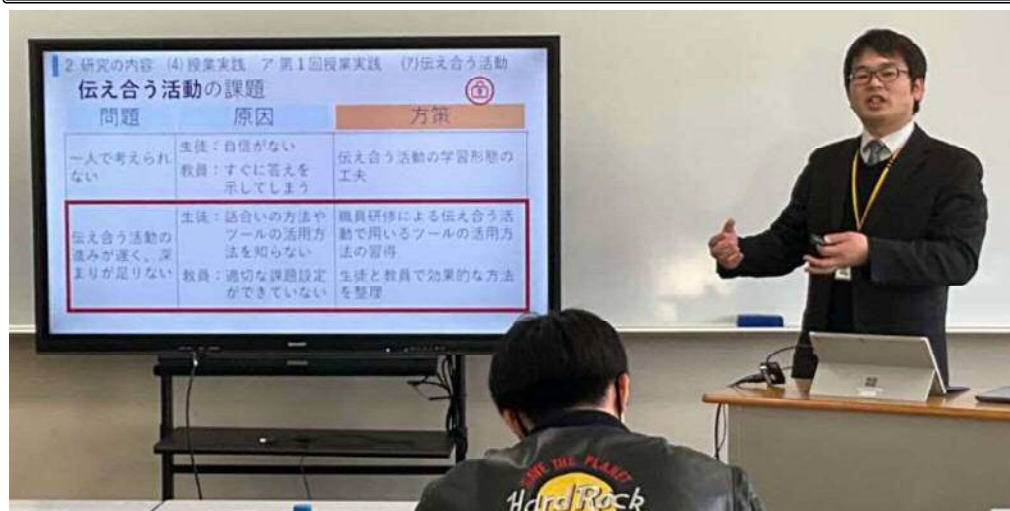
「主体的に学習に取り組む力」を自らの学習を調整しようとする側面として捉えるということについても新たな気付きを得た。山口先生の研究をもとに自分であったらどんな声掛けや教材の工夫をするか。もっと考えていきたい。
 (大学2年生)

研究の仕方について学ぶことができました。どのように課題を設定し、どのように実践授業を行い、どのようにその成果を見取るかについて、自身の研究を振り返るきっかけにもなり、実践研究の難しさがどこのあたりにあるのかについても、一つ先の知見をいただけたように思います。
 (大学院M1)

デジタル版「やまぐちっ子プリント」がとても魅力的だったので、早く使えるようになってほしいと思いながら話を聞いていた。実際の授業の中でどう活用したのか具体的に聞くことができ、大変参考になった。すぐに正誤が出て子どもたちが自分の学習に活かすことができることが1番の魅力だと思った。「できるはず」「がんばる！」という意欲と実際の力との差をどう受け止めさせるかという点については、そこがICTやAIにはできない教師の出所だと思った。Society5.0の時代がやってくると教師の役割はこう変わっていくのかなと考えさせられたお話だった。
 (小学校教諭)

テーマ：自分の考えを言語化することによる知識の概念的な理解を促す指導に関する研究
 - 「伝え合う活動」と「振り返り」を継続的に取り入れた授業を通して—

講師 やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
 山口県周南市立福川中学校 教諭 山本 貴志 さん



授業に様々な工夫をすることで、生徒が学習内容と既存の知識を結びつけるようになったことが印象的だった。

教員の働きかけの重要性を改めて実感したので、どのような働きかけができるか考えていきたい。
 (大学3年生)

山本先生の講座に参加して、「概念的な理解」とはどのように定義されているものなのか、また、「概念的な理解」とは、どのような生徒の姿を目指しているのかについて、捉えることができた。

山本先生は、言語化の活動として、「伝え合う活動」と「振り返り」の手立てに工夫をされていた。効果的な方法も教えていただき、自分の研究の参考になった。
 (大学院M1)



山本先生の研究についてのお話を、自分の研究に活かせる点がないか考えながら聞いていた。私の研究では生徒の振り返りが重要になるので、振り返りを「Y(やったこと)」「W(分かったこと)」「T(つながり)」の視点で行うことが勉強になった。生徒が振り返りを書く力を付けるために必要なことだと感じた。
 (大学院M1)

テーマ：総合的な探究の時間を楽しんでいますか？Curious Classroom：
探究と発見の旅へ、ICT&生成AIと描くストーリー

講師 山口県立防府高等学校 教諭 黒川 真実 さん



生成AIを使うことで被る不利益のことを考えがちだが、黒川先生のICTを熟知した上で上手く使うという考え方を見習いたい。また、教師が色々なことに興味をもつことが、生徒にもよい影響を与えると知った。

私は学生の視点でこの授業を受けたが、実際にICTを使って総合の授業を受けてみたいと思うほど楽しかった。今度は教師側の視点をもって、ICTをどう活用するか、考えたい。
(大学3年生)

総合的な探究の時間について、お話をお聞きしたが、黒川先生自身が様々なことに興味をもたれ、日々探究されていることに驚いた。「子どもたちに探究しよう！」と言う前に、教師自身が探究することは、非常に大切だと思った。

また、「たのしんどい」という言葉も非常に印象に残っている。学ぶためには、楽しいだけでも物足りないし、しんどいだけでも辛いので、楽しくてしんどい「たのしんどい」がちょうどいいと知った。

黒川先生が紹介して下さったアプリをすぐにダウンロードしてみた。私も新しいことにチャレンジし、探究心を大事にしていきたい。
(特別支援学校教諭)

「たのしんどい」という黒川先生のお言葉が心にずっと残っています。

探究は面白いけれど楽ではない。ゴールが見えず不安になったり、面倒臭い地道な作業が必要だったりもします。だからこそ、今日お教えいただいた情報を得る様々な手段、AIとの曖昧さを許さない付き合い方等を、味方にしていきたいと感じました。

黒川先生のように感度を高く、おもしろいものにアンテナを張る教師でありたいですし、「たのしくしんどいこと」に挑んでいきたいと思いました。
(小学校教諭)

講師の皆様、お忙しい中、充実した学びの場を提供していただき、
ありがとうございました！

来年度の2月コーホートでもこのような会を企画しておりますので、
時期がきましたら、講座を担当して下さる方を募集いたします。

